

2023年2月8日

公益財団法人日本バスケットボール協会
2022年度(7-6月期)第7回理事会 報告

日時:2023年2月8日(水) 13:00~15:00

会場:— (WEB会議)

【報告内容】

1. 裁定委員会からの答申について
2. 2022年度(2022年7-6月期)修正予算(案)について
3. 天皇杯・皇后杯検討部会の設置について
4. 正式JBA公認S級コーチ養成講習会の実施について
5. 2022年度S級A級審判員およびT級1級2級審判インストラクター昇格者の承認について
6. JBA事務局体制の変更について
7. その他、報告事項

以上

1. 裁定委員会からの答申について

裁定委員会から答申のあった下記事案について、以下の通り懲罰を科すことが承認された。

1) 高等学校バスケットボール部元顧問（対象者氏名等詳細非公表）

< 懲罰内容 >

- ・本協会の登録資格を、2023年2月8日（懲罰決定の日）から6か月間停止する。
※1年以上の懲罰が相当と考えられるところ、対象者が他団体から既に科されている懲罰期間を考慮した。
- ・併せて研修の受講の義務を科す。

< 懲罰の理由 >

本協会倫理規程第3条第1項(3)「暴力、暴言、ハラスメント、差別、ドーピングおよび八百長等の不適切な行為ならびにスポーツのインテグリティまたはフェアプレーを著しく害する行為」に該当

< 事案の概要 >

- ・所属選手複数名に対する暴力（足の脛を蹴る、おでこを叩く、肩を押す行為）
- ・所属選手複数名に対する不適切行為（叱責して2時間弱、立たせる行為）

■懲罰の公表については、JBA公式サイト「懲罰の公表」ページをご参照ください。

>> <http://www.japanbasketball.jp/jba/sanction/>

2. 2022 年度（2022 年 7-6 月期）修正予算（案）について

2022 年度（2022 年 7-6 月期）予算計画についての修正案が提案され、提案どおり承認された。

【修正予算計画】

	2021 年度実績	2022 年度 当初予算	2022 年度 修正予算案	当初予算比
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益	4,458	4,842	5,676	834
(2) 経常費用	4,654	4,835	5,538	703
当期経常増減額	▲196	7	138	130
2. 経常外増減の部				
当期一般正味財産増減額	-196	7	138	130
一般正味財産期首残高	682	486	486	0
一般正味財産期末残高	486	493	624	130
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	20	20
指定正味財産期首残高	10	10	10	0
指定正味財産期末残高	10	10	30	20
III 正味財産期末残高	496	503	654	150

■ 予算および決算等については、JBA公式サイト「収支（予算／決算）」ページをご参照ください。

>> <http://www.japanbasketball.jp/jba/data/bp/>

3. 天皇杯・皇后杯検討部会の設置について

天皇杯/皇后杯における課題および中期方針を検討するため、競技会委員会内に「天皇杯/皇后杯検討部会」を設置する提案がなされ、承認された。

【設置の目的等】

下記 4 点を中心とした天皇杯・皇后杯の中期方針を検討・策定する。

- ① 2017 年度 / 2020 年度と段階的に大会要件等を大きく変更し現在の方式となったが、コロナ禍の影響、B.LEAGUE / W リーグと日本代表活動への対応、都道府県代表チームおよび運営方式等、様々な意見や課題等がある。
- ② 特別委員会「男子日本代表強化検討委員会」にて、2026 年度以降における競技カレンダーの検討を行っており、JBAとして天皇杯における方向性を改めて定める必要性が生じて

いる。また、皇后杯においても、同様に検討する。

- ③ B.LEAGUE / Wリーグに限らず、都道府県予選から勝ち抜いたチームにおいても、現行方式において課題があり、都道府県予選から天皇杯・皇后杯決勝までの全体を検討する必要がある。
- ④ 天皇杯・皇后杯に関連する構想や協賛等においても、連携して方向性を検討する必要がある。

<その他、特記事項>

検討部会部会長を門川浩人（JBA 副会長 / 競技会委員会委員長 / 天皇杯・皇后杯大会実施委員長）とする。

4. 正式 JBA 公認 S 級コーチ養成講習会の実施について

準備期間、またコロナ禍等の影響もあり現在暫定 S 級として取り扱っている S 級コーチライセンスの正式 S 級化へ向けた、2023 年度より開始される正式 JBA 公認 S 級コーチ養成講習会の内容等について提案がなされ、承認された。

【背景・経緯等】

- ・S 級コーチライセンスは、トップリーグのヘッドコーチに必要なライセンスとして設定。
- ・S 級は 2016 年から 2022 年まで暫定 S 級講習会を毎年、開催し、暫定 S 級コーチを養成してきた（※現在、暫定 S 級 130 名、暫定を解除された S 級 6 名）。
- ・正式 S 級コーチ養成講習会の内容は、2019 年 2 月 13 日開催の理事会にて承認済み。当初、2021 年から正式 S 級講習会を開始予定であったが、コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて開催が延期され、2023 年度に開催できる見込みとなった。

5. 2022 年度 S 級 A 級審判員および T 級 1 級 2 級審判インストラクター昇格者の承認について

ライセンス認定要件を満たした登録者についての昇格認定、および認定されたライセンスの付与について提案がなされ、承認された。

【2022 年度昇格者】（* 昇格者一覧は掲載を割愛）

○レフェリー：S 級＝13 名、A 級＝42 名

○インストラクター：T 級＝1 名、1 級＝30 名、2 級＝46 名



6. JBA 事務局体制の変更について

JBA 事務局体制に、新たに「広報/PRグループ」を設置することが提案され、承認された。

【背景・目的等】

これまで JBA に関する広報/プロモーション業務は BMK へ業務委託にて対応していたが、さらなる広報/PR 事業拡大に向けて、JBA 内組織として活動することにより、各担当事業者との連携やさらなる告知等の拡大につなげる。

■ 変更後の JBA 組織図は JBA 公式サイトにてご確認ください。

>> <http://www.japanbasketball.jp/jba/organigram>

7. その他、報告事項

(1) 懲罰対象者の研修プログラム実施内容について

懲罰対象者の研修プログラム実施内容について報告がなされた。主な内容は以下の通り。

<主な内容>

- ・懲罰対象者の懲罰期間および保有ライセンスによってプログラムの内容が異なること。
- ・反省文の評価などは、指導者養成委員会にプロジェクトチームをつくり対応。心理学を専門とする大学教員などで構成すること。
- ・プログラム終了後に JBA 指導者養成グループ事務局との面談を実施し、プログラムを受講しての気づきや再発防止に向けた今後の見通しなどを確認すること。

(2) 理事会からの検討依頼事項について(指導者養成委員会)

コーチライセンス更新制度に関して理事会から検討依頼があった下記 2 事項について指導者養成委員会（2022 年度第 7 回指導者養成委員会、1 月 16 日開催）にて検討を行い、その進捗等に関する報告がなされた。

<理事会検討依頼事項>

- ① ライセンス取得/更新時に、暴力・暴言根絶に関する誓約を義務化すること。
- ② リフレッシュ研修時、e ラーニングのみではなく、極力対面による研修を課すこと。

以上